

# 『新関文件録』から見る 19世紀後期の中国語の対訳 — 日本近代漢語との比較において —

陳 力 衛

## 1. はじめに

19世紀後半の中国語は在華外国人の手によって文法、語彙、文体の面で再認識され、記録されている。トーマス・ウェード (Sir Thomas Francis Wade 1818-1895, 中国語名、威妥瑪) の『語言自邇集』(1867. 5) と『文件自邇集』(1867. 12) がそれぞれ嚆矢となり、話し言葉は、その重心が南京語から北京語へと転換を果たし、書き言葉についても、伝統的な中国知識人の科挙に必要な四書五経の文章 (いわゆる「八股文」) からいわゆる「文件体」という実用的な公用文へと認識が大きく転換した<sup>1)</sup>。そういう意味において本稿の研究対象となるフリードリッヒ・ヒルトの『新関文件録』(1885-1888) は後者の流れを受け継いだものとされている。

そこでこの『新関文件録』に出てくる語彙に目を転じると、税関や貿易などに関わる語を中心に、同時代の中国と世界との接触に必要な表現、いわゆる書き言葉 (文件体) として同時代の生きた言葉を多く採取しているのが特徴であろう。したがって、従来の英華・華英字典類の場合とは異なっている。たとえばロプシャイトの『英華字典』(1866-69) に代表されるように、19世紀後半以降の英華字典は既成の英語辞典を底本に英語

---

1) 程龍 (2011) を参照。

と対訳する中国語を当てたものがほとんどである。華英字典であっても一世紀も前の『康熙字典』を底本に編集された19世紀前半のモリソン、メドハーストの辞書の流れが根強く残る一方、19世紀後半になると、たとえば同じ税関職員のスレント (George Carter Stent) による『漢英合璧相連字彙』(*A Chinese and English Vocabulary in the Pekinese Dialect*, 1871) のように、北京口語を多く採録したのも出てくる。このような文章語的な資料の分析を通して19世紀後半の中国語における語の認定(一語の単位としての区切り方)と中国語の復音節化の具体的な様子を見ることができる。同時に中国語と英語との対訳を通して新しい意味概念の付与、とりわけ新語の生成とその現状を確認することができよう。さらに、本稿では同時代の明治20年代の日本語の漢語同形語との比較により、中国語との関連及びいくつかの問題点を明らかにしようと考えている。

## 2. 著者とその業績

### 2.1 東西交流史研究の先駆者

著者のフリードリヒ・ヒルト (Friedrich Hirth, 1845-1927, 中国名、夏徳) はドイツ出身の東洋史学者で、ライプツィヒ、ベルリン、グライフスヴァルトなどの大学で古典文献学を学んだ後、清朝同治9(1870)年に中国へ渡り、以降光緒23(1897)年まで27年間中国の各地の海関に勤務し、1876年廈門を皮切りに、1878-1886年に上海海関、そして九龍、淡水、鎮江、宜昌、重慶等で副税務、代理司税務司と税務司などの職を歴任した。1897年に帰国し、1902年にはアメリカのコロンビア大学に招かれ、初代の中国学教授として活躍した。第1次世界大戦後の1918年にミュンヘンに帰り、1927年その地で死去した。

彼はその勤務の傍ら、中国語及び中国の文献によって東西交渉史、絵画、陶器などを研究して多くの論考を発表した。『中国とローマの東方』(*China and Roman Orient*, 1885) や『中国美術に及ぼせる外国の影響』(*Ueber fremde*

*Einflüsse in der chinesischen Kunst*, 1896) など数多くの著書をもって知られている。中国と西アジアとの交流史を中心に『後漢書』『西域伝』等のなかの大秦、西海、条支をシリア、ペルシャ湾、その湾岸地方に比定した説を唱えた。氏の渡米後の研究についても早くから日本に紹介されている。池内宏 (1911) 「フリードリヒ・ヒルト述「不明なる拂菻国」」と白鳥庫吉 (1914) 「フリードリヒ・ヒルト述「不明の拂菻国」」と、二回にわたる氏の最新研究が翻訳・紹介された。さらにヒルトの帰国後の記念論集については、石田幹之助 (1921) 「フリードリヒ・ヒルト博士第七十五回誕辰祝賀記念論文集二種」で紹介されたり<sup>2)</sup>、榎一雄 (1955) 「魏書粟特国伝と匈奴・フン同族問題」でその研究に触れたりして、日本学界にも影響を及ぼした人物として知られている。その著書の一つ『中国古代史』(*The Ancient History of China* 1908) も単行本として西山栄久によって『支那古代史』(雙松書屋, 1918) として翻訳された。中国近代史の風雲児たる張継による中国語の序文もあり<sup>3)</sup>、同時代の中国人、たとえば梁啓超などにも早くから知られるようになったものと思われる。なおその本が昭和 4 年 (1929) に丙午出版社によって再版されていた。

---

2) 記念論集の一つにガールグレンの「漢字の分解について」と Z. L. Yih の「『墨子』緒論」という論考が収録されている。

3) 夏徳支那古代史序

吾家漢族。發自天山、昆侖之西。沿黃河而東來往。證諸古籍、口碑。推為當然。秦政焚書。竹帛多絕。文獻無考固矣。龔自珍曰。漢定天下。立群師、置群弟子。利祿之門。爭以異文起其家。故易、書、詩、春秋之文多異云。歷代千百學者。挾此殘缺之異文以爭訟。萬卷充棟。概零碎而無組織。懸想而難實證。此東陸士儒之通病也。近世歐西科學日進。供史學之材料者。尤推古物學與人類學二科。尼羅、梯古裏河畔之一棺一石。皆成埃及、波斯之現身。非洲、南洋叢林之酋長、遊牧。可觀三皇、五帝之同風。今之修史者。高瞻遠矚。有振衣千仞之慨。非呻吟殘篇以想象者。所可同日而語也。吾友吳子敬恒曰。欲知漢族之起源。重訂古史者。當發掘黃河上遊秦、隴一帶。可得上古之遺跡。以分析證明之云。誠然哉。西山君日東博學之士。出所譯夏徳之支那古代史以示余。受而讀之。挾科學新法。以正無稽之言。所斷定者。未必盡是。然高出於鈔寫古書者多矣。略書數語。以還諸西山君。君亦有同感乎。

民國七年春日在江戶 張継

彼の研究業績について、とくにアメリカにおける東洋学の基礎を築いたドイツ人三傑として、Alfred Forke (1867-1944), K. Berthold. Laufer (1874-1934) と並んで評価されている。また、石田幹之助が称したように西域研究においては「ヒルトの時代」があったほどであった<sup>4)</sup>。

## 2.2 『新関文件録』及びその語学関連

ヒルトは、早くから中国の税関に関する論文を書いたり、税関の文章に接したりしている。その文章理解と翻訳の苦労をもとに『新関文件録』(二巻, 1885-88)を編集したものとされる<sup>5)</sup>。なお、「新関」とは従来の清朝既有的「常関」に対して1858年の天津条約に伴う通商条約の改定に際し、各開港場に外国人税務司が配置される「海関」のことを指す。

1885年に出版された『新関文件録』第一巻は海関の実務としての中国語のみの書類や文書を集めたものである。3年後の1888年に出版された第二巻は、その書類と文書の英訳の抜粋を示しただけでなく、そこに出てくる中国語に英訳を施し、出現順に並べた前半と、中国語の発音をウェード式ローマ字のアルファベット順に並べた後半からなっている。つまり、第二巻は華英対訳の語彙表であって、第一巻の具体的な文章に照合でき、そのコンテキストにおける意味などを確認できるものとして、より確かな、同時代的な華英字典と称することができる。

本稿に使う『新関文件録』は架蔵の二冊(27.5×22cm)のハードカバーの大型本で、二冊とも背に「HIRTH'S / DOCRY / CHINESE」と金文字三段入りしている。

第一巻の表表紙の見返しの左上には「Kee Shing 祺興 printer, book-binder and Stationer, established 1868. FOOCHOW」というラベルが張られている。

---

4) 李雪涛(2008)58頁を参照。

5) たとえば、「粵海関税則」“The Hoppo-Book of 1753”. Journal of the North China Branch of the Royal Asiatic Society. 17: 221-235. 1882.

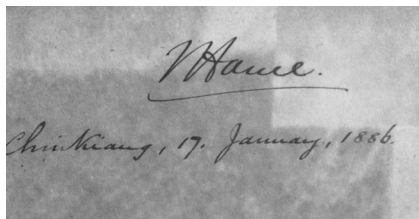


図 1

そして右の遊び紙の右上に所有者のサイン（図 1 Mason / Chin Kiang, 19. January, 1886）がある。それにより、この第一巻は出版された翌年の 1 月 19 日に所有者 Mason が Chin Kiang（鎮江）にて入手したようである<sup>6)</sup>。1888 年に出版された第二巻には同じ「祺興」のラベルがあるが、サインはない。常識的に考えれば、鎮江で海関職員だった Mason が福州の老舗「祺興」を通してこの二冊を購入したのではなく、むしろ後に「祺興」に流れたこの本が次の買い手によって日本に持ち込まれたものと推測している。

第一巻の扉には「新関文件録 / HSIN-KUAN WÊN-CHIEN-LU / TEXT BOOK / of / DOCUMENTARY CHINESE, / WITH A VOCABULARY, / FOR THE SPECIAL USE OF THE CHINESE CUSTOMS SERVICE. / EDITED BY / F. HIRTH, Ph. D. / Deputy Commissioner and Assistant Statistical Secretary, Inspectorate / General of Customs, Shanghai. / IN TWO VOLUMES. / VOL. I. /

6) 所有者のサインについて、まだ確実なものではないが、もし、かのイギリス人メイソン (Mason Charles Welsh, 1866-1951) のものであれば、1887 年に來華し鎮江海関に勤務したという従来の彼の履歴を覆して、一年早く 1886 年 1 月にすでに來華したことになる。メイソンは中国の哥老会の蜂起のために香港から武器の密輸をしたことで 1891 年後半逮捕され、裁判にかけられ、有罪判決を受けた。刑務所で 1 年過ごした後、1892 年にイギリスに戻り、「Mr. M.」というペンネームで文学に目を向けることとなる。*The Chinese Confessions of Charles Welsh Mason*, 1924 はこの事件の経緯を書いた自伝小説である。その第四章の冒頭にはただ “I had been in the country four years and was twenty-four years old.” と記すだけで、具体的な來華年月を示していない。

Published by Order of the Inspector General of Customs. / SHANGHAI: / PUBLISHED AT THE STATISTICAL DEPARTMENT OF THE INSPECTORATE GENERAL OF CUSTOMS, / AND SOLD BY / MESSRS. KELIY & WALSH, SHANGHAI, YOKOHAMA, AND HONGKONG. / LONDON: P. S. KING & SON, CANADA BUILDING, KING STREET, WESTMINSTER, S. W. / 1885.」とある。

ところが、中国のネットに挙げてある「海関老照片—新関文件録」<sup>7)</sup>の表紙には、二重の枠内の四角に草花の模様が配置され、漢字名とそのローマ字読みの表題「新関文件録 / HSIN-KUAN WÊN-CHIEN-LU」がなく、DOCUMENTARY CHINESE、と著書名 F. HIRTH, Ph. D. と出版元の Published by Order of the Inspector General of Customs. が朱の文字で印刷されているほか、残りは黒で印刷されている。最後の販売所の三行も抜けている。本来の表紙である可能性が高く、架蔵書は新たにハードカバーに製本する際に表紙が抜けたのかもしれない。

扉のあとに TABLE OF CONTENTS. (iii~v) と INDEX OF SUBJECTS. (vi~viii) が続くが、その後には右から開く縦書きの中国語本文 TEXT BOOK OF MODERN DOCUMENTARY CHINESE の最後のページ 272 となる。収録された文例 1.~143. は輸出入に関する物品の伝票や規則など長ささまざまな内容がある。たとえば 19. の「通商各関來往各船隻噸総数」(通商各国の輸出入の総トン数)において 1882 年に英国が一番の 10,814,779 噸、ドイツが二番目の 882,856 噸、日本がフランス、アメリカを抑えて三番目に多い 194,584 噸になっていることがわかる。つまり、具体的な文例は中国の貿易の実態を反映させるものが多く、中国経済史の資料としても活用できよう。濱下武志(2021)では F. ヒルトを「中英社会経済用語集を編集した」「コロンビア大学初代中国学科教授」としてとりあげつつ、『新関文件

7) [https://s.weibo.com/weibo?q=%E5%8E%A6%E9%97%A8%E6%B5%B7%E5%85%B3%E6%89%A7%E5%8B%A4&Refer=user\\_weibo](https://s.weibo.com/weibo?q=%E5%8E%A6%E9%97%A8%E6%B5%B7%E5%85%B3%E6%89%A7%E5%8B%A4&Refer=user_weibo)

録』を含めた海関資料群には「従来の近代史研究を遥かに超える地域研究・時代研究の課題が含まれている。」とその利用を勧めている。

第二巻の扉は VOL. II. と出版年の 1888. 以外はほぼ第一巻と同様である。そのあとに TABLE OF CONTENTS が続く。1~118 頁は文例順に並べた Part I. — Vocabulary, analytically arranged., 119~255 頁はアルファベット順に並べた Part II. — Vocabulary, alphabetically arranged., 256~298 頁は文例の英訳の抜粋 Appendix — Selected Translation., 最後の 299 頁は正誤表 CORRIGENDA である。

一方、ヒルトの著書として同じ 1888 年に出版された『文件小字典』(1888) も挙げられる<sup>8)</sup>。表紙の様子は先ほど紹介した中国のネットに挙がる第一巻のものと同様である。赤黒の二色刷りで「VOCABULARY / OF THE / TEXT BOOK / DOCUMENTARY CHINESE / BY / F. HIRTH, Ph. D. / Deputy Commissioner and Assistant Statistical Secretary, Inspectorate / General of Customs, Shanghai. / Published by Order of the Inspector General of Customs. / SHANGHAI: / STATISTICAL DEPARTMENT OF THE INSPECTORATE GENERAL OF CUSTOMS, / 1888.」と印刷されている。扉には「文件小字典 / WĒN-CHIEN HSIAO-TZŪ-TIEN.」という漢字とローマ読みのタイトルを付けた以外は表紙と同じ内容となっている。先の第一巻の扉と同様、出版年 1888. の前に AND SOLD BY / MESSRS. KELIY & WALSH, SHANGHAI, YOKOHAMA, AND HONGKONG. / LONDON: P. S. KING & SON, CANADA BUILDING, KING STREET, WESTMINSTER, S. W. とある。その次頁は正誤表 CORRIGENDA で、四か所を挙げているが、第二巻の最後のページの CORRIGENDA (第一巻 10 か所、第二巻 10 か所) からそのまま Part II. — Vocabulary, alphabetically arranged. にあたる部分 (四か所) だけ抜き出したものである<sup>9)</sup>。

8) 董麗娟, 陳麗 (2016) でこれを 1885 年の出版としたのは誤りである。

9) たとえば Page 6a, Under “ch’ang 常 constantly; usually; commonly,” insert “常關,

『文件小字典』(1888) は単に『新関文件録』第二巻のアルファベット順に並べた Part II. — Vocabulary, alphabetically arranged. を独立させたもので、内容と版式はまったく同じで、ただページ数を、本文 3 頁の A から最後の 137 頁までを組みなおしただけであった。そして遊び紙を経て裏表紙には表紙と同じ模様で真ん中には朱字で縦書きの「文件小字典」とある<sup>10)</sup>。いわば分厚い『新関文件録』二冊より、まさに書名の『文件小字典』の通り、手頃な華英字典として広く利用できるようにアレンジされたものであろう。

同じ 1888 年に著者はさらに『文件字句入門』(1888) を出版している。扉には、「文件字句入門 / Wên-Chien Tzū-Ghü Ju-Mên / NOTES / ON THE / CHINESE DOCUMENTARY STYLE. / BY F. HIRTH, Ph. D., / Deputy Commissioner and Assistant Statistical Secretary, Inspectorate / General of Customs, Shanghai. / KELIY & WALSH, LIMITED: SHANGHAI, HONGKONG, YOKOHAMA, AND SINGAPORE. / 1888.」とある。次のページには「SHANGHAI: / PRINTED AT THE PRESBYTERIAN MISSION PRESS.」と、前記の二書と異なって「美華書館」で印刷されたことがわかる。つまり上海海関総稅務司署造冊処による公的な出版というより、個人的な著書として出版したものと位置づけられる。

PREFACE には、先学の Stanislas Julien's *Syntaxe Nouvelle de la Langue Chinoise*. と Prof. von der Gabelentz's *Chinesische Grammatik* (Leipzig, 1881) が参考とされたように、この本は語法・文法に関してまとめたものである。落款の日付は SHANGHAI February, 1888 とあることから、ほぼ『新関文件録』第二巻と同じころに出版されたことになる。そして書名のとおりに、

---

the Native Customs, as opposed to 新關 (hsin-kuan), the Foreign Customs.”のほか、7,27,97 頁の訂正だけが示されている。

- 10) ここで使ったテキストは Google books に挙げているカルフォルニア大学 University of California Libraries の所蔵本であって、ほかに国会図書館や京都大学にも所蔵されている。



当然ながらウェードの『文件自邇集』(1867. 12)を強く意識したものであり、しかもその文例は著者自身の編集した『新関文件録』からあまり採用されず、逆に『文件自邇集』から多く採録しているため、最初からウェードの『文件自邇集』に即した実用的な文法書として作られているのかもしれない。事実、「ウェードの『文件自邇集』には多数の文例と文書形式が収録され、書記言語の部分的な翻訳をも提供されたが、その書記言語の独特の文法的特徴や表現習慣を説明せぬままでは、やはり読者にはわかりにくかった。この仕事は、1880年代の終わりになって、ようやくドイツの中国学者ヒルトによって完成された」<sup>11)</sup>と評価されているのはまさにこの『文件字句入門』のことである。この本は1909年に再版され、さらに1969年に Paragon Book Reprint によって復刻版が出されている。

### 3. 所収語の特徴

本稿はおもに『新関文件録』第二巻の Part II. — Vocabulary, alphabetically arranged. (あるいは同じ内容の『文件小字典』)に基づいて二音節語を中心に抽出を試みた。というのはアルファベット順に並べた漢字の親字が先頭にきて、それによる関連語が後に並べられるという従来の華英字典と同じ形式になるため、語構成や造語力の確認が行いやすいからである。むしろ、具体的な文脈における使い方を確認する際は文例順に並べた Part I. — Vocabulary, analytically arranged. を参照しなければならない。

董麗娟、陳麗 (2016)によれば、『新関文件録』第二巻の語彙表に収録されたのは9,301語で、そのうち単音節語が2,530、復音節語が6,771となっている。従来の華英字典に比べて「所収の語は海関業務に必要な常用語

---

11) 程龍 (2012)「威妥瑪《文件自邇集》浅析」に「威妥瑪虽然在《文件自邇集》中提供了大量文件体书面语的范文和部分翻译,却并没有对文件体书面语的独特语法特点和用词习惯给予说明和解释,这给广大初学汉语的西方外交官带来了一些的困难。这一工作直到19世纪80年代末,才由驻华外交官,德国汉学家夏德完成。」とある。

句]であって、「数は少ないが重要な語が多い」という。たしかに、いわゆる一字語でも用言、助詞助動詞の類を含めて全部独立して使える語であり、その解釈には著者自身の英知を垣間見ることができることが多い。たとえば次のようなものである。

夷 barbarian; foreign. By Article LI of the British Treaty of Tientsin (1858) it was agreed that this character should not be applied, in Chinese official documents, to the British Government or to British subjects; it is therefore no longer used in international correspondence.

つまり、「夷」について天津条約(1858)の第51条<sup>12)</sup>により、この字は、中国の公式文書では、英国政府または英国向けの主題に用いられるべきではないことが合意された。したがって、国際間の文書では使用されなくなった。事実、それを境に「洋」をもって外国や外国人のことを表すことが増えてきた。『新関文件録』においても「夷」による熟語が一つも収録されていないのに対して、「洋」による熟語が32語収録されたことがこの変化を物語っている。

復音節の場合でも「潮漲時、正在…間、成直線、極為明晰、極美」といった従来『康熙字典』を底本に編集された華英字典の収録語と異なっている。実際に使用された文書から抜き出した連語や句の表現が多く集まっています、いわば現実的、同時代的な特徴を持っていると言えよう。たとえば、

地方 a place. This noun is frequently added to local names, and need not then be translated.

この語の使い方について単独では場所などを表すが、具体的な地名の後に付く場合はわざわざ訳す必要はないと丁寧に説明している。日本語の例で説明すると、「甲信越地方」「九州地方」のように、前のローカル名だけで理解すれば良いのと同じである。

---

12) 中英「天津条約」第五十一款：「嗣後各式公文，無論京外，內叙大英国官民自不得提書夷字。」

また、名詞に関しても税関という関係上、物品名や地名などを豊富に収録している。たとえば、鴉片の品種や布の生地やお茶の種類など当時の貿易に不可欠な物品名を確認するには好材料となっている。

ここではこの『新関文件録』を 19 世紀後期の中国語の研究資料として、日本の同時代の同形語を念頭に置きながら、地名や二字漢語の形成及び使用を実例をまじえながら考察する。

### 3.1 外国地名

中国の地名に関して本書は非常に収録が完備ではあるが、本稿では主に外国の地名について触れておく。周知のように、明末の『東西洋考』(1617)に示された中国伝統的な「西洋」と「東洋」はマラッカを境に西の交趾(ベトナム)、東埔寨、暹羅(タイ)を西洋、東の呂宋、日本を東洋としていたが、19 世紀後半の『新関文件録』では、

西洋 the western sea; European; foreign

東洋 the eastern sea; Japan; Japanese.

のように、ほぼ近代的な「西洋、東洋」の概念になっている。収録語の「東洋車」を a Japanese carriage; a jinricsha. と解釈するのも後者の意味を裏付けている。一方、

胡人 Central Asiatics.

紅毛 red haired; red-haired foreigners, originally the Dutch, afterwards the English, and now all foreigners. It is not considered a respectful term by foreigners.

のように、「胡人」は中央アジアの人を指すのに対して、「紅毛」は最初はオランダ、次はイギリス、最後はすべての外国人といったように、指す対象が変わってきている。その意味において日本語での使い方とも似ている。

外国名の漢字表記は 16 世紀以来の世界認識とともに激しく変容してきた。19 世紀後半になってからはほぼ現代の表記に定着したが、バラエティ

ーが富む表記の国名も残っている。たとえばフランスは、「法国」のほか  
に日本語に共通する「佛蘭西」も含め、「法蘭西 佛蘭西 法郎西」なども  
使われている。また「法蘭呢 flannel.」のように「法蘭」で産地を示し  
「呢」で素材を示す商品名も目立つ。「英吉利 English; British」と「德意志  
German」も別表記が載る。アメリカについても「美国 America;  
American.」「合衆国 the United States.」「花旗 the American flag, lit., the  
Howery banner; the United States; American.」が使われているが、ハワイは  
当時まだ独立国だったので「哈外意国 (ha-wai-i-kuo) Hawaii; Hawaiian.」と  
なっている。現在の漢字による当て字「夏威夷」が常夏をイメージするも  
のであるが、もちろん「国」ではなくなっている。

先の「法国」「美国」と同じように、ヨーロッパ(「歐羅巴 Europe.」)諸国  
について二文字の略称がよく使われていた。「俄国」「英国」「德国」など  
は今日の中国語と変わらないが、「希国 Greece; Greek」「義国 (= 意大利  
i-ta-li) Italy; Italian.」「丹国 Denmark; Danish.」「比国 (= 比利时国 pi-li-shih),  
Belgium; Belgian.」「布国 (= 布路斯国 pu-lu-ssu) Prussia; Prussian)」「瑞  
国 Sweden; wedish」といった省略の言い方は今日では使われなくなっている。  
一番戸惑うのはおそらく「日国」であろう。「大清国」と「大日国」を並  
列させる文例 130. では、もちろん日本をさすのではなく、スペインこと  
「日斯巴尼亚国 Espana Spain; Spanish.」の略称である。20世紀に入っても、  
たとえば1915年に上海商務印書館で出版された岡本大八編『海関英華語  
言録』には、「Spain. 日西班牙 Reino de España」とあるように、「日斯」は  
残っているものの、やや今日の定訳「西班牙」には一歩近づいている。

そのほかの「国」のつく国名はさほど多くないため、以下に示す。

西洋国 Portugal. / 瑞典国, 瑞敦国 Sweden; Swedish. / 墨西哥国 (mo-hsi-  
ko) Mexico. / 挪爾爲国 (no-erh-wei-kuo) Norway. 瑙威国 (nao-wei-kuo)  
Norway; Norwegian. / 荷蘭国 (ho-lan-kuo) Holland; the Netherlands; Dutch.  
/ 大英国 Great Britain; British. / 埃及国 (ai-chi-kuo) Egypt. / 阿拉比国 (a-la-

pi-kuo) Arabia. / 土耳(基)国 Turkey; Turkish. / 大呂宋国 the kingdom of Spain. / 印度国 India; Indian. / 安南国 (an-nan-kuo) Annam; Annamese. / 日本国 Japan; Japanese.

最初の「西洋国」がポルトガルをさすとはさすが大航海時代の代表としての面影を彷彿させるものであろう。「大呂宋国」も「小呂宋 the Philippines.」と対照的に、宗主国であるスペインの威光を示す表記であらう。

「国」のつかない表記として、当時ではまだ独立していないものが多い。

幹阿達 (kan-a-ta) Canada. / 古巴 (ku-pa) Cuba. / 新金山 Australia; lit., new California / 紐西蘭 (niu-hsi-lan) New Zealand. / 新加坡 (hsin-kia-po) Singapore. / 越南 Annam. / 琉球 (liu-chiu) the Lu-chu Islands. / 高麗 (kao-li) Korea; Corean. / 蒙古 Mongolia; Mongolian.

最初のカナダはまだ英国から独立していない。読みに当てられた漢字を見ると、kan-a-ta という三音節のうち、母音 a を「阿」で表しているのに対して、今日の「加拿大」は Jia-na-ta と「拿」で na を表している。そしてカリフォルニアのサンフランシスコを「旧金山」と称するように、オーストラリアを「新金山」と呼ぶのは新しく押し寄せているゴールデンラッシュを反映するものであろう。隣のニュージーランドの漢字表記を、一文字目の音訳の「紐」から意識の「新」に変えたのが今日の中国語の表記「新西蘭」である。「越南」も古い言い方の「安南国」とともに使われている。そのほかは古い地名のまま使われている。

都市の名前については、まず「京都 the capital; Peking, as the capital of China (also, the city of Kioto in Japan).」のように、当時は首都北京をさす。『万国公法』(1864)を出版した「京都崇実館」がそれである。一方、日本の京都をも意味することを忘れていない。19 世紀後半では「巴理京城 the capital city of pa-li, Paris.」「夏湾拏 Havana」となっていたパリやハバナが、今日の中国語では「巴黎, 哈瓦那」となっている。「漢諾威 (han-no-wei)

Hanover; Hanoverian.」 「漢謝城 (han-hsieh ch'eng) the Hanse towns in Germany.」など、ドイツの都市を多く挙げているのは編者自身の郷土愛を反映したものであろうか。

### 3.2 新語

新語とはなにか、その基準は難しいが、従来では19世紀の英華字典や漢訳洋書で西洋概念との照合を果たしたものを指すことが多い。逆にこの資料は同時代の中国語が先にあって、英語をもって対訳をしているものなので、個々の中国語の同時代性を確認するには最適である。その中で、長い英華字典の歴史の中で継承された既存の対訳もあれば、西洋概念に対する創造的な対訳もある。たとえば、前者は「貿易 trade. / 制度 to make rules; direction; management. / 見識 knowledge; experience.」などが挙げられるが、後者はたとえば「自来水, 自来火, 自鳴鐘」や「洋人, 洋行, 洋酒, 洋鎗」のような「洋」のつく32語が挙げられるであろう。さらに西洋の度量衡を音訳したものが目立っている。たとえば、「密理邁当 (mi-li-mai-tang, in imitation of the French sound “millimetre”) a millimetre; 毫米 millimetres.」 「密力 (mi-li) a mille.」 「各羅斯 a gross」 「打臣 dozen」 「噸数 tonnage (amount of)」などが挙げられる。

実は、前出した董麗娟、陳麗 (2016) の所収語の統計は、『新関文件録』第二巻の語彙表によるものであって、第一巻の文例のすべての異なり語数を表すものではない。つまり本文にはあるものの、単語表には入れていないものもある。たとえば文例130には「中国人民前往古巴寓居之事」のように、「中国人民」<sup>13)</sup>が頻出するが、語彙表には収載されていない。

ここではまず新語らしきものを、英訳の省かれた語を含めて五十音順(以下同)に示す。

---

13) 陳 (2019) 83 頁では漢訳『万国公法』(1864) に「人民」が使われたことを指摘している。

委員 to depute officers; a deputy; a delegate. / 硫黄強水 sulphuric acid / 凹鏡 a concave lens, or a reflector.<sup>14)</sup> / 圓形 / 圓徑 / 圓球 / 鉛筆 a lead pencil. / 活字 movable type. / 滑石 soapstone. / 火輪船 a steamer. / 寒暑表 a thermometer. / 幹事 to manage an affair. / 官民 officials and private people. / 顔料 dyeing materials; dye-stuff. / 機器 machinery<sup>15)</sup> -局; 辦国外機器 to buy foreign machinery. / 機會 / 氣塞 the stopping of the breath. / 規模 a pattern; a rule. / 技能 talent; ability. / 機密 / 空白 blank (as a form not filled up) / 軍需 / 警船浮 a buoy / 原稿 / 原告 / 見識 knowledge; experience. / 工期 / 工人 workman; a coolie. / 香水 fragrant water; perfumery.<sup>16)</sup> / 金剛石 the diamond. / 材料 / 産業 a business to make a living from; a living / 時刻 time / 事實 / 事情 / 時辰表 a watch; watches. / 時分 time; hour. / 自鳴鐘 a striking clock; clocks. / 事務 / 車輛 carts; carriages. / 住宅 / 住宿 / 出洋輪船 an ocean steamer (as opposed to a “river steamer”) / 種類 / 巡查 / 醬油 / 庶民 all people; the people; the subjects. / 自来火 lucifer matches; also, gaslight; gas. / 自來水 water from the waterworks. / 進口 to enter port; to import; import. / 信息 news. / 新聞 news; tidings. 新聞紙 a newspaper. / 水利 taxes on water industries (as fisheries). / 制度 to make rules; direction; management. / 勢力 strength; prowess; influence. / 切水面 at the water-line. / 全權 / 全数 / 千里鏡 telescopes. / 双眼鏡 opera-glasses. / 單身 a single body; alone; by oneself. / 单数 an odd number. / 中間 / 中句 / 中人 / 中線 / 中途 / 帳簿 in account book; / 直線 a straight line. / 出口 to export; to leave port; to clear from a port. / 定額 / 定数, fixed amount; a fixed number / 電気

- 
- 14) ドーリットル『英華萃林韻府』(1872)では Concave glasses が対応する。現代中国語では「凹透鏡」の形が一般的になっている。
- 15) メドハースト『英華字典』(1847-48)には a machine 機器の対訳があり、ドーリットル『英華萃林韻府』にも継承されている。日本語では『西国立志編』(1871)『哲学字彙』(1881)に見られる。
- 16) ロブシャイト『英華字典』(1866-69)には liquid perfumes 香水の対訳がある。

electricity. / 電線 an electric wire; a telegraph; telegraphic. / 電線行 telegraph company. / 伝染症 a contagious disease. / 電報 a telegram. / 統共・統計 total; a grand total. / 度数 degrees.<sup>17)</sup> / 内閣 the Grand Secretariat, or Imperial Cabinet; the Court Archives. / 内輪器具 the engines (on board a steamer). / 万国公法 international law. / 帆布 canvas. / 平等 of equal standing. / 風雨表 a barometer/ 風俗 / 物件 packages. / 方向 / 方便 / 方法 / 翻譯官 an official interpreter. / 有限 there is a limit; limited; few. / 油漆画 oil paintings. / 利益 / 陸運 to forward by land. / 列島 islands; the Islands. / 領事官 consul.

19世紀の英華字典と照合してみたところ、あきらかにそれらから継承している語が多く、とく19世紀後半のロプシャイト『英華字典』（規模も関係しているが）に既出していることが確認できた。上記の語の多くも英華字典とともに日本に伝わっているが、下線部で示しているものはより新しい使い方となる。「統計 total」の対訳は日本語の「統計学 statistics」の成立にかかわってくるであろうし、「油漆画 oil paintings」が今日の「油画」へと変わっている。

むろん、下記のように、より近代的な意味の語も収録されている。

国家 the Government. / 国会 a parliament; a national assembly. / 性理 natural disposition. / 限度 a restriction.<sup>18)</sup>

これらはいずれも近代日本語に生かされている。『哲学字彙』（1881）では「限度」は「limit 制限, 界限, 辺際, 限度, 端悦」と limit の訳語とし

---

17) モリソンの英華字典(1822)に次のような例がみられる。Mark on the back of the circle, the degrees of the equinoctial 環背刻赤道度数。What does this room measure in length 這間房子的度数有幾尺長。

18) 『史記-平準書』に「争于奢侈, 室廬輿服, 僭于上, 無限度」とみられる。モリソンの『五車韻府』を始め、19世紀の英華字典にほとんど収録されている。



て使われている。しかしながら、以下のような語は近代的意味にはなお距離があるように思われる。

運動 to move about; to circulate (as goods in the country).

教育 to supply spiritual and bodily food.

精神 healthy; in good physical condition.

自然 of course; spontaneous; natural.

これらについてはいままでの研究ですでに指摘されているが<sup>19)</sup>、たとえば「運動」はまだ動詞的な意味「動き回る;流通する」に止まっていて名詞にはなっていない。「教育」も「精神のおよび肉体的な食物を供給する」という動詞の使い方がメインである。つまり上記の語の現代的な意味は、逆に日本語という環境下で完成したということが言えよう。

その意味で言えば『新関文件録』には「日中同形異義語」が意外に多く見られる。

案内 in the case / 加工 extra work. / 過載 to transfer cargo from one ship to another; to transship. / 顔色 colour. / 原本 original; the original value; origin; root. / 出力 to exert oneself / 処分 fines and other punishments imposed upon an official. / 定規 a fixed rule; to fix; fixed; to decide. / 水道 water road; sea road; the fairway channel for ships / 水路 water; a water route (by sea or by river). / 生理 occupation; business / 調理 to nurse one's health. / 配合 to unite; to join together. / 白酒 white wine; sherry. / 便当 comfortable; convenient. / 放心 to make one's mind easy; also, to lose liiaru / 勉強 to be forced against one's own will. / 方式 square/ 本当 properly speaking, I ought to; ought; should. / 無理 unreasonable. / 毛布 gingham. / 約束 to restrain; to keep in order; to exercise a proper control over. / 理論 to discuss; to reason. / 料理 to manage.

---

19) 陳 (2019) 223 頁, 329 頁と (2021) を参照。

たとえば、「生理」について、すでに指摘のように<sup>20)</sup>、この時代の中国語が生業の意味に止まっていて、まだ近代的な「生理学」の意味に使われていない。同じように「方式」という語はここにあるものの、日本語の今日の意味ではなく square、つまり四方形のことをいう。中国語の現代的意味は逆に日本由来の可能性が高い。

### 3.3 二字漢語

従来、名詞の新語新概念に関心が集中しがちだが、日中間の語彙交流という意味では、他の二字漢語についても検討する必要があるのではないかと考え、より広く集めてみた。

意思	意見	遺書	遺失	意図	違背	違犯	違和	会議	<u>開設</u>
開放	確實	確拠	関係	感激	艱難	干涉	簡便	簡略	合併
救護	救援	救出	救命	<u>強制</u>	举行	驅逐	區別	經度	經費
経過	経歴	携帯	計量	緊密	謹呈	緊要	堅固	検査	減税
建筑	交易	校閲	後悔	公館	公議	工作	交涉	公正	後統
後來	後輩	交納	購買	公費	公務	公用	互換	告示	鼓動
混雜	作為	指示	指明	指揮	指名	支出	支持	試験	辞退
釋放	借用	周圉	周知	収納	十分	周密	主事	主治	<u>出資</u>
試用	消化	照会	償還	賞給	証拠	詳細	情状	承認	奨励
尋常	迅速	親属	親筆	親身	審判	生計	清潔	精巧	施行
清楚	制造	声明	整理	整頓	切實	接統	設立	<u>專屬</u>	<u>操作</u>
<u>增益</u>	創始	創造	<u>創設</u>	相对	争論	代理	遲延	耻辱	抽出
徵収	追究	定期	転売	同時	同様	同意	同等	同類	同行
同一	通知	通達	通報	通行	通用	通商	通事	統轄	統帥
度量	入選	発売	犯罪	判断	反復	比較	比例	非常	分別

20) 陳(2019)329頁。

『新関文件録』から見る 19 世紀後期の中国語の対訳

分散 分布 分類 分身 兵役 偏見 辨明 辯論 包括 保衛  
保護 保險 補助 補足 報知 優待 流通

まず下線部で示された語は 19 世紀後半に使用されたものが多く、他の語よりは相対的に新しい。そして語構成からみても、以下のようなパターンによる造語が目立つ。例として挙げているのはもちろん『新関文件録』にあるもので、意味確認のため英語の解釈を付けたままのものもある。

(1)動賓構造

観光 喫煙 省力 納税 免税

(2)動補構造

運回 撤回 贖回 撤退 接來 帶有 完過 充足 充滿 作成

(3)連用修飾

公議 公立 極妙 極美 極力 常用 新定 必欲 必用 予定  
予備 実存 the real balance; the net total. / 実在 really. / 特論 a special  
order; / 以概論 to take the broad view of a matter. / 自作 self made;

(4)連体修飾

異邦 a foreign country. / 異議 a different arrangement. 成案 a precedent;  
lit. a ready case. / 定評 to decide to have a casting vote if votes are divided. /

(5)主述構造

官設銀号 an official bank; a banker authorized

従来、日本語の和製漢語の語構成として成立しやすい(3)連用修飾、(4)連体修飾、(5)主述構造もこの時代の中国語によく使われていたことになる。あるいは一語として区切れることが外国人ならではの語の意識の反映によるものとして捉えるであろう。たとえば、「免税、納税、特論、異議」など従来の辞書では 20 世紀以降の用例しか挙げていないため、日本からの逆輸入とも受け止められやすいが、実際には中国語としての使用も 19 世紀後半から続いてきたものである。最後の「官設」は日本語の「公立」とも近い意味だが、このテキストにある中国語の「公立」は「to publicly

draw up (as a protocol); to sign a public…… (as a protest).」のように、大勢の人によって擁立される意味のようで、連用修飾の語構成であって日本語の今日の意味とは異なっている。

その中に近代中国で日本由来の新名詞として批判を浴びた「優待」も入っている<sup>21)</sup>。

優待 to treat with consideration; to treat civilly.

「配慮して扱う; 礼儀正しく扱う」の意味として今日とは同じであり、モリソン以来の英華字典にも収録されてきた。

その他、注目すべきものとして「式、等、級」による造語である。

式 pattern; type. / 新式 new pattern; new style. / 洋式 foreign type. / 洋式船隻 foreign-type vessels. / 華式 native (Chinese) type

一等(頭等) of the first class. / 加三級 granted three steps of merit

つまり先の「官設」と同じように、のちに名詞の前に来て連体修飾としての役割しか働かない。いわゆる「非謂形容詞」(あるいは「区別詞」)の発生に結びつくような表現が増えてくるのである。

#### 4. 後世への影響

『新関文件録』は外国人の中国語学習や特に海関職員にとって必要不可欠なテキストとなり、簡便な華英字典ともなっている。その後、20世紀初頭までの三十年間その影響が続いたことが同じ税関職員の手による辞書類などでわかる。

##### 4.1 漢字索引

先にも記したが、『新関文件録』の第一巻は中国語原文の文例(1~143)であり、第二巻はその文例順の単語表とアルファベット順のピンインによ

---

21) 陳(2019)254頁を参照。

る単語表からなっている。しかも後者を独立させた『文件小字典』もある。本来は使いやすいはずだが、しかし、外国人にとってそもそも第一巻を手にして初出の漢字に出会ったら、どう読むべきか戸惑うことが多かっただろうと推測される。そこで四年後の 1892 年に出版されたのは同じ海関職員 E. Ruhstrat の手によって編集された下記の全 42 頁の漢字索引（部首、難字、発音）である。

Index of the Characters in Dr. Hirth's "Text Book of Documentary Chinese,"  
Arranged by Their Radicals: With a List Giving Their Tones. SHANGHAI:  
Printed by KELIY & WALSH, LIMITED, Nanking Road (1892)

つまり、まず『新関文件録』第二巻に収録された語彙集、とくにアルファベット順に並べた Part II. — Vocabulary, alphabetically arranged. (別刷りの『文件小字典』(1888)も含む)に出ている漢字を 211 の部首によって組みなおし、すべての漢字にはピンインの読みも付けている。その次は 214 字の難字索引で、その部首の画数と順番を示す。その後は本文のアルファベット順索引で、最初の「a<sup>1,3,4</sup>阿」から最後の「yun<sup>3</sup>允」までピンイン及び四声のついた 2,587 漢字を並べている（前記の董麗娟、陳麗 (2016) の調査結果 (2,530 字) より 57 字多い)。漢字の形から読みへの手引きで、最終的にはアルファベット順に並べた上記の語彙集へと導かれ、意味の確認にたどりつく構成となっている。

#### 4.2 再版による内容の充実

『新関文件録』が出版されてから二十年後（著者がすでに中国から離れて米  
国コロンビア大学の中国学の初代主任教授をつとめていたころ）、C. H. Brewitt-Taylor によって第二版にあたる上下二冊の増補改訂版 (1909-1910) が刊行された。

第一巻の表紙には「新関文件録 / TEXT BOOK / of / MODERN DOCUMENTARY CHINESE, / FOR THE SPECIAL USE OF THE CHINESE

CUSTOMS SERVICE. / BY / F. HIRTH, Ph. D. / Second Edition: Vol. I. -Text. / rearranged, enlarged, and edited by / C. H. Brewitt-Taylor, / Commissioner of Customs, Director of the Customs College, Peking. / Published by Order of the Inspector General of Customs. / SHANGHAI: / PUBLISHED AT THE STATISTICAL DEPARTMENT OF THE INSPECTORATE GENERAL OF CUSTOMS, / AND SOLD BY / KELIY & WALSH LIMITED: SHANGHAI, HONGKONG, YOKOHAMA, AND SINGAPORE. / 1909.」とあり、翌1910年に出版された第二巻は「Second Edition: Vol. II -Key.」の表示を変えただけである。サイズは初版と同じ27.5 × 22cmである。

C. H. Brewitt-Taylor は(1857-1938, 中国語名、鄧羅)は英国人で1880年に福州船政学堂(Foochow Arsenal Naval College)で航海や数学などを教授してから、1892年に海関職員となる。この本を出版した時の肩書は北京に設立された海関の職員を養成する「税務学堂 the Customs College」<sup>22)</sup>の実質責任者であるから、こうした増補版は学校の教材になったものと想定される。Brewitt-Taylor はさらに1925年に『三国志演義』を初めて英訳したことで世にその名を知られる。

タイトルに modern を入れたところが初版との相違点ととられるが、本来初版上下二巻の本文の左ページヘッダーに TEXT BOOK OF, 右ページヘッダーに MODERN DOCUMENTARY CHINESE が印字されているから、むしろこれをそのまま第二版のタイトルに生かしたとも考えられる。

第一巻は初版と同じく、左から右へ表紙と目次が横書きで組まれているのに対して、本文の文例を初版の143から240へと100ほど増やしたことにより、ページ数も初版より130頁ほど増加した。右から左へ組まれた縦書きの408頁となった。また、主題ごとに単摺(forms)、派遣(dispatches)、書簡(letters)、訴状(petitions)、論文、章程など(treaties, rules, etc.)、通知

---

22) 1908年10月7日北京王府井西堂子胡同に開校。1910年11月朝陽門大雅宝胡同の新校舎に移る。

(notifications), 法令と記念文 (edicts and memorials), 雑記 (miscellaneous) の 8 分類にしている。

第二巻は 224 頁で、初版の Part I のような文例順に英語の翻訳 (初版に訳さなかった分と増補分) と語彙解釈を添えているが、逆にアルファベット順に並べた Part II. — Vocabulary, alphabetically arranged. が作られていない。そして増補の内容および語の解釈は初版と異なる部分も多くいろいろと独自性を帯びているので、稿を改めて考察を加えていきたいが、本稿ではただ、特徴的に最後のところにある、*Vocabulary of phrases used in Part I to VI not found in MacGillivray's dictionary of Chinese, Edition 1905* の部分に注目したい。ここに収録された単語、いわゆる MacGillivray の辞書 (1905) には見られないものを部首、画数順 (MacGillivray の辞書そのものはアルファベット順だが) に並べている。まさしく前節 4.1 の漢字索引の応用である。全部で 424 語を並べているが、うち一字語は 24 語であった。「保険, 區別, 嚴密, 大抵, 妥協, 完納, 強迫, 意図, 携帯, 拡充, 政府, 料理, 施行, 会議, 林立, 根拠地, 検査, 整顿, 比例, 民生, 空白, 簡約, 若干, 製造局, 觀光, 逐一, 郵政司, 重視, 開明, 隨時, 隨員, 体制」など、MacGillivray の辞書 (1905) にはないものの、『新関文件録』(1909) では使われていた。さらに下線部の語はすでに『新関文件録』(1885) で使われていたものであった。一方、それ以外の語は時代的には日本語からの影響をも考慮する必要が出てくるかもしれない。たとえば「根拠地 Base of operations」は岡千仞の『尊攘紀事』(1882) 卷 6 に「皆謂日光山地勢險要德川氏所廟可為根據之地」とあるのを皮切りに、その後「自家根據地との交通を遮断」(『海上権力史論：上』1896) などのように 19 世紀の末期まで広く使われていた。

その内容の重要性から 1968 年に台湾の成文出版社から 1909 年の上巻と 1910 年の下巻をあわせて、一冊本に仕上げた復刻版が刊行されている (本稿ではこの復刻版を使用)。また、『新関文件録 (1909)』の影印版 (上巻のみ) を「近代中国史料叢刊三編第二十輯」(沈雲龍主編) に収録したものが

文海出版社から出版されている。

### 4.3 海関職員の編集した辞書や語彙集

#### 4.3.1 ステント『漢英合璧相連字彙』(1871)と MacGillivray の辞書 (1905)

冒頭で触れたように、19 世紀後半になって華英字典といえば、海関職員のステント (George Carter Stent, 1833-1884, 中国語名, 司登得) による『漢英合璧相連字彙』(*A Chinese And English Vocabulary in The Pekinese Dialect*, 1871) が挙げられる。漢字のウェード式標音に基づくアルファベット順の配列と北京語を中心とした語彙は従来の華英字典と異なって画期的なものであった。ヒルトの『新関文件録』が出版される前におそらくもっとも身近なものであったものと考えられる。北京口語も多く収録したところが『新関文件録』とはやや性質が異なる。この辞書に訂正を加えたのは上記の『新関文件録』第二版で言及したマックギリブレイ (D. MacGillivray, 1862-1931, 中国語名, 季理斐) による *A Mandarin-Romanized dictionary of Chinese. (On the same principle as G. C. Stent's Vocabulary)* (1905) である。1907 年の第二版の扉には漢字のタイトルとして「華英成語合璧字集」とある。

#### 4.3.2 ウィリアムスの『海関語言必須 HAI KUAN YÜ YEN PI HSÜ』

(1908) 及び増補再版 (1914)

『海関語言必須 HAI KUAN YÜ YEN PI HSÜ』(*a dictionary of 3,000 commonly recurring expressions compiled with a view to being useful to the Chinese imperial maritime customs service. Wade's Romanisation.* C. A. S. Williams, Commercial Press, LTD. SHANGHAI. 1908) は表題の通り、海関用語 3,000 語の英華対訳の語彙集である。中国語の訳語にはすべてウェード式ローマ字で読みをつけているハンドブックである。INTRODUCTION の中に参考書として一番目に挙げているのはむろんヒルトの『新関文件録』である。そのあとはいきなり 1-



105 頁の本文となる。

編者のウィリアムス (Charles Alfred Speed Williams. 1884-?, 中国語名, 文林士) は英国人の漢学者で, 1903 年中国海関に入る。上海, 天津などを経て, 1931 年北京の代理税務司を務めた。上記 3000 語収録の『海関語言必須』に続いて 1914 年の増補改訂版 *An Anglo-Chinese Glossary for Customs and Commercial Use Revised Edition*, では千語近くを増やし, 3,940 語, 本文も 145 頁増補し, 最後に 146-178 頁にわたって漢字の部首画数による検索が載る。その序文によると, 語彙集の内容は(1)海関 (Maritime Customs), (2)常関 (Native), (3)華洋貿易 (Chinese and Foreign Trade), (4)郵政 (Postal), (5)政治 (Political), (6)地理 (Political), (7)雑記 (Miscellaneous) の七類にわたっている。そして税関職員だけでなく, 広く一般人にとっても「開卷有益」と謳っている<sup>23)</sup>。

#### 4.3.3 ヘメリングの『南京官話』(1902)と英華字典(1916)

同じ海関職員のヘメリング (Hemeling, Karl Ernst Georg, 1878-1925, 中国語名, 赫美玲) の『南京官話 The Nanking Kuan Hua』(Shanghai: Statistical Department of the Inspectorate General of Customs, 1902.) は, 『語言自邇集』, 『官話指南』, そしてヒルトの『文件字句入門』を参考にして書いたものである。

ヘメリングはさらにステントの華英字典『漢英合璧相連字彙』(*A Chinese And English Vocabulary in The Pekinese Dialect*, 1871) を英華字典の *A dictionary from English to colloquial Mandarin Chinese* 1905 へと改訂した。そして, もっとも知られているのは英華字典の *English-Chinese Dictionary of the Standard Chinese Spoken Language* (官話), and *Handbook for Translators, Including Scientific, Technical, Modern, and Documentary Term*. Shanghai:

23) その中国語の序文によると, 「是書大旨雖為供海関人員之用, 故所載句語似乎多係適用於此中人。惟其間利便檢查之処, 雖青年学子, 商務諸君, 以及各界華英人士, 留心中国時務之趨向者, 手此一篇想亦開卷有益云爾。」という。

Statistical Department of the Inspectorate General of Customs. 1916である。それは語彙の位相を俗語、書記語、新語などに分けて記号で示すところが特徴である。

ほかに岡本大八『海英華語彙』(*Custom Officers' English-Chinese Vade-Mecum, Compiled with a View to being Useful to Members of the Chinese Maritime Custom Service*, 上海:商務印書館, 1915)が挙げられるが、海関会話を中心としたもので、分類語彙集は「地名、文具、家具、薬剤、果蔬、獣禽、飲食、金石、雑項」の九類でわずか500未満の単語を収録しているに過ぎない。

## 5. おわりに

1889年創刊の『地学雑誌』の19巻2号(1907年2月15日)の雑報欄には、鉄椎(ペンネームか)による「ヒルト氏の支那語研究法」と題する一文がある。これはニューヨーク・イブニングポストに載せたコロンビア大学に在職中のヒルトの文章の翻訳紹介で、中国語習得に関する意見である。「大抵の外国学生は学校を出でたる後支那語を語り、若は読むに就き学べる所の要領を失せり、現場に於て得る所は其語る語学に止まり、多くの人文章を読むよりも現場に於て語るに長ぜり」という西洋人の語学学習を踏まえて、むしろ「日本人の少年の語学研究は書きたる語学に重きを置き、語る語学は機会の来るに委するなり」という学習法が効果的で実用的であるという。そして「此長所は吾人は到底日本人に及ばざるなり、我が支那語学生は先づ大学に数年を費やして、書籍の語学を充分に誦んぜしむ可く、語れる語学の如きは支那に住居せば自ら之に慣るゝに至る可し」と、中国語学習において、会話能力より、文章理解及び翻訳能力をより重視すべきだと主張している。その中でとくに日本の中国語学習法を「模倣せざる可からず」と言い、西洋人の中国語学習法を批判している。つまり著者ヒルトの主張は自身の『新関文件録』編集の目的と意義をふまえての経験談であろう。

日本との関係について考えると、本稿で扱っているヒルトの著書などがすべて日本国内に所蔵され、実物を確認することができる。ただし、『新関文件録』を通しての影響関係をいまのところ直接確認できていない。それでも上述してきたように、明治期の漢語を見比べると、『新関文件録』との類似性、または同時代性が目立っていることが一目瞭然である。なぜそのようなになったのかを考えると、従来知られている通り、17世紀の『福恵全書』を始めとする漢籍の受容とともに、日本語における漢語の近代的なソースは漢訳洋書と英華字典と白話資料とに求めている、その中に、すでに同時代の中国語の文章や用語を積極的に取り入れているものがあったと考えられている。しかし、『新関文件録』などのように、近代日本に書記言語用の漢文モデルがあったとしたら、それによって日中近代漢語の交流のベースとなるものが出来ているだろうと期待したくなる。つまり、日本近代漢語のいわゆる古典中国語との関係を再考すべき問題とつながる。『日本国語大辞典』では、漢籍での初出例を挙げているため、こうした近代中国語の例を挙げることは少ない。そうになると、あたかも時代的な断絶があって近代日本語で突如新たな語形として出現したような錯覚をもたらすことになる。今後『普法戦記』(1873)や『中東戦記本末』(1896)など、明治10年代以降日本で読まれているそういった資料のリストアップが課題となり、同時代的な日中近代漢語の異同に注目していきたいと考えている。

**【参考文献】**

- 池内宏「フリードリヒ・ヒルト述「不明なる拂菻国」」『東洋学報』1巻1号、1911年1月
- 石田幹之助「フリードリヒ・ヒルト博士第七十五回誕辰祝賀記念論文集二種」『東洋学報』11巻4号、1921年11月
- 榎一雄「魏書粟特国伝と匈奴・フン同族問題」『東洋学報』37巻4号、1955年3月

- 周薦「近代以来漢語術語譯創一瞥」『中国科技術語』2021年8月
- 白鳥庫吉「フリードリヒ・ヒルト述「不明の拂菻国」」『東洋学報』4巻2号，  
1914年2月
- 陳力衛『近代知の翻訳と伝播—漢語を媒介に』三省堂，2019年5月
- 陳力衛「近代訳語のいわゆる転用語について—「文学」と「教育」を例として」  
『中国語学』268号，2021年10月
- 程龍「西方駐華外交官対晚清“文件体”書面語的認識与研究」『社会科学戦線』  
2011年第10期
- 程龍「威妥瑪『文件自邇集』浅析」『中国文化研究』2012年春之卷
- 董麗娟，陳麗「夏德『新関文件録』及其『文件小字典』研究」王澧華，吳穎 主  
編『近代海関洋員漢語教材研究』広西師範大学出版社，2016年5月
- フリードリッヒ・ヒルト著，西山栄久訳『支那古代史』雙松書屋蔵版，三省堂發  
行，1918年3月
- 濱下武志『中国近代經濟史研究：清末海関財政与通商口岸市場圈』江蘇人民出版  
社，2008年5月
- 濱下武志「海関資料に生かされる——旧中国海関資料群の活用と次代の東アジ  
ア研究——」『史学雜誌』130編1号，2021年2月15日
- 李雪涛『日耳曼學術譜系中的漢学—德国漢学之研究』外語教学与研究出版社，  
2008年6月
- 李雪涛「一本漢語教科書反映的近代中德關係—薛薇，康慕義『新式中文書面語入  
門練習冊』初探」『RC文化雜誌』中文版第92期，2014年10日